

授 業 科 目 名	保育原理	教 員 名	山下 愛実	免許・資格 との関係	小学校教諭	
					幼稚園教諭	
授 業 形 態	講義	担当形態	単独	卒業要件	保育士	必修
科 目 番 号	SEN104	配当年次	1年前期		こども音楽療育士	
単 位 数	2単位			小幼コース	選択	
科 目						
施 行 規 則 に 定 め る 科 目 区 分 又 は 事 項 等						
一 般 目 標	誕生から就学前の乳幼児の保育についての基本的な見方や考え方、保育の理論を学び理解する。また保育所における保育の実際や多様な保育ニーズについて理解する。さらに家庭・地域との連携や相談・援助の基本的事項について理解する。					
到 達 目 標	(1)保育の意義及び目的について理解する。 (2)保育に関する法令及び制度について理解する。 (3)保育所保育指針における保育の基本について理解する。 (4)保育の思想と歴史的変遷について理解する。 (5)保育の現状と課題について考察する。					
授 業 の 概 要	<p>保育者は多角的な視点から子どもの育ちを考え、子どもの育ちにに応じた保育実践を模索していくことが求められる。そこで、保育の歴史や保育の意義等について理解することを目指す。特に保育の基本である、養護と教育の一体性、環境を通して行う保育、発達過程に応じた保育、保護者との緊密な連携、倫理観に裏付けられた保育士の専門性について理解する。また、保育の現状を調べ、その課題解決の方策を検討する。授業形態は講義とする。</p> <p>アクティブラーニングとして、振り返り、グループディスカッション、グループレポート、個人レポートなどを取り入れる。</p>					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「5.教育実践力を身につけている。」「6.教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授 業 計 画	<p>第1回：オリエンテーション・保育の理念や概念 保育・子ども・遊びなどを大きな骨組みがわかり、保育原理を学ぶ意義を理解する。(目標(1))</p> <p>第2回：保育の社会的役割と責任 子ども家庭福祉の観点から保育施設の役割や虐待防止等について学ぶ。(目標(1))</p> <p>第3回：子ども・子育て支援新制度 子ども・子育て支援新制度の仕組みや取組で目ざしていることについて学ぶ。(目標(2))</p> <p>第4回：保育の実施体系 保育施設の設置及び運営の基準や、支給認定、教育・保育給付の仕組みについて学ぶ。(目標(2))</p> <p>第5回：保育所・幼稚園・認定こども園 保育を支える法規や目的や対象児童など保育所・幼稚園の相違点、また認定こども園についても併せて学ぶ。(目標(2))</p> <p>第6回：保育の意義・目標 生きる力の基礎を培うためにどのような目標のもと、保育がなされていくのかについて学ぶ。(目標(3))</p> <p>第7回：保育方法 保育の目的や目標を達成するためにどのような内容をどのように(方法)展開していくのかについて学ぶ。(目標(3))</p> <p>第8回：保育の環境 保育における「環境」や「環境による保育」とは何か、また環境による保育のあり方について学ぶ。(目標(3))</p> <p>第9回：保育と遊び</p>					

	<p>乳幼児期の遊びの特徴や生活や遊びを通しての育ちについて学ぶ。(目標(3))</p> <p>第10回：保育所における保育 保育所保育指針とは何か、また保育所における養護や子どもの最善の利益を考慮した保育について学ぶ。(目標(3))</p> <p>第11回：子どもの発達の特性① 乳児、1歳以上3歳未満児それぞれの発達の特性を理解し、発達の連続性を踏まえた保育について学ぶ。(目標(3))</p> <p>第12回：子どもの発達の特性② 3歳以上児の保育の基礎を理解するとともに、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を活用した保育の可視化について考える。(目標(3))</p> <p>第13回：保育のあゆみ（諸外国） 保育の歴史を学ぶ意味を知り、諸外国においてその考えがどのような時代的・社会的背景に支えられて生じたものか、また現在の保育の考え方にどのような影響を及ぼしているのかについて学ぶ。(目標(4))</p> <p>第14回：保育のあゆみ（日本） 諸外国のどのような保育の考え方や流れが現在の保育所や幼稚園の保育に影響を及ぼしているのかなど日本の保育の歴史や保育制度の変遷について学ぶ。(目標(4))</p> <p>第15回：保育の現状と課題 現代の保育における課題と展望 現代の子どもの生活環境や子どもの保護者の状況を踏まえ、保育における課題とその展望について学ぶ。(目標(5))</p> <p>定期試験</p>
学生に対する評価	<p>受講姿勢（グループワーク・発表等）20%、ワークシート・提出物20%、期末試験60%</p> <p>なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コメントを記載して返却する。</li> <li>・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。</li> <li>・答案例を配布する。</li> </ul>
時間外の学習について	<p>（事前・事後学習として週4時間以上行うこと。）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習した内容についてプリントで再確認しておく。また、これまで配布したプリントを再読し、理解を深め、不明点は質問する。</li> <li>・講義を受けて、レポート課題があるときには必ず次回の授業で提出すること。</li> <li>・講義で使った資料やノートファイル管理を徹底すること。</li> </ul>
テキスト	<p>汐見稔幸・大豆生田啓友監修（2019）『アクティベート保育学01 保育原理』ミネルヴァ書房</p>
参考書・参考資料等	<p>厚生労働省（2018）『保育所保育指針解説』フレーベル館</p> <p>文部科学省（2018）『幼稚園教育要領解説』フレーベル館</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』フレーベル館</p> <p>なお適宜資料を配付する。</p>
担当者からのメッセージ	<p>積極的に授業に参加する中で、子どもの育ちの豊かさや子どもの育ちを支える保育の面白さに触れ、子どもへの関心や保育の理解が深まることを期待します。</p>
オフィスアワー	<p>授業の前後の時間（メール等でアポイントを取る）</p>